



やまなし サイエンスラボ

山梨の産業の活性化や県民生活の
向上を目指す試験研究機関の紹介

vol. 6 果樹試験場



シャインマスカットの生産拡大に 向けた栽培技術の開発

果樹試験場では、近年、おいしさと食べやすさで消費者に人気が高く、生産量が急増しているブドウ「シャインマスカット」の房づくりと摘粒の作業時間の削減を目指した、省力栽培技術の開発を行っています。

果樹王国を支える 研究開発と支援活動

果樹試験場は、昭和13年に東山梨郡上万力村・平等村(現・山梨市)に県立農事試験場園芸分場として開設されました。以来、山梨の果樹生産技術の向上やオリジナル品種の育成、また情報発信拠点としての役割を担ってきました。現在は品種育成に関する研究を行う育種部、高品質安定生産技術の開発に取り組む栽培部、病虫害防除技術や施肥^{せひ}および果実の貯蔵技術の改善などに取り組む環境部が、果樹王国やまなしのさらなる発展のために、それぞれの専門分野で研究開発を行う一方、生産者との連携を図りながら技術の普及活動も行っています。

シャインマスカットの 栽培面積拡大に向けて

全国的にも人気が高く、近年は海外でも注目を集めている「シャインマスカット」は、病害に対する抵抗性が高く栽培しやすいことから、県内においても現在、出荷量が「巨峰」に次いで2位となっています。果樹試験場としても、これまで行ってきた高品質安定生産に向けた研究開発に加え、栽培面積の拡大に対応できる作業効率の向上を目指し、省力化も視野に入れた栽培管理方法の確立に取り組んでいます。

ブドウ栽培に関わる主な作業は6月の1カ月間に集中し、中でも房づくり(花穂^{かすい}の整形作業)と、摘粒(粒の間



果樹試験場 栽培部
生食ブドウ栽培科
里吉 友貴 研究員



省力化実現で
シャインマスカット
への期待がより一層
高まっています

ブドウ栽培農家
坂本 浩二 さん

シャインマスカット栽培を始めて10年になりますが、果樹試験場にはいつも技術的なことを相談させてもらっています。省力化の技術は昨年から導入していて、作業を手伝ってくれる方からも「すごく楽でいい」と言ってもらっています。生産者にとって省力化が進むのはとても画期的なことです。品質についても従来の栽培法と変わらない高品質なものできています。これからも山梨のシャインマスカットが一番おいしいといわれるように、より一層技術を高めていきたいです。



「坂本さんは栽培技術が高い生産者さんなので、試験場にとっても頼れる存在です」「省力化は重要な課題ですから、試験場で技術開発してもらえるのは、ありがたいです」とお互い信頼関係を築いている

果樹試験場



【問い合わせ先】

住所:山梨市江草原1204

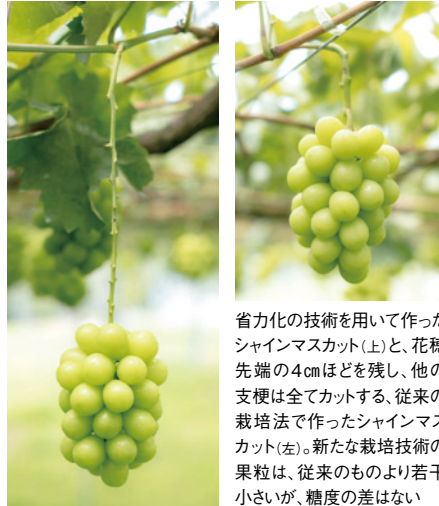
TEL:0553-22-1921 FAX:0553-23-3814

山梨 果樹試験場

検索



主軸から分かれた上部の支梗を利用した房づくり。ブドウの蕾が付いている支梗が2本あるが、果形の良い方を残す



省力化の技術を用いて作ったシャインマスカット(上)と、花穂先端の4cmほどを残し、他の支梗は全てカットする、従来の栽培法で作ったシャインマスカット(左)。新たな栽培技術の果粒は、従来のものより若干小さいが、糖度の差はない



引き作業)に多くの時間がかかるため、これらの作業時間の削減を検討しました。研究の結果、主軸から分かれた上部の支梗(写真①)を利用することにより、房づくりに欠かせない花穂(開花前のブドウの房)にはさみを入れる回数や摘粒の手間を少なくできるなど、これまでの作業時間を約6割削減する成果が得られました。また、さらに省力化を図りたい場合は、展葉(新芽が開き葉になること)5枚時にジベレリン処理を組み合わせると、花穂が伸長し摘粒の作業時間を大幅に短縮できるという結果も出ました。

現在は、関係機関と連携し、生産現場での技術の適応性を検討しています。

現在、シャインマスカットの生産量は全国的に急増しています。産地間競争に打ち勝つためにも引き続き高品質な果実生産や省力化技術など、生産現場に即した研究を行うとともに、2020年東京オリンピックを好機として海外に山梨産シャインマスカットをアピールしていきたいと思っています。

生産量増加で山梨の農業のさらなる発展を

